

（３）教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置

○教職員の配置

- ・教員は大講座に籍を置き、各教育研究コースのカリキュラムに応じて適切な授業科目を提供する。持続的な研究体制を維持すると同時に、社会的要請に応じたカリキュラムの設定を可能とするため、教育と研究の組織的分離を実現する。

○教育環境の整備

- ・教室やコンピュータ実習室の IT 環境の整備を進める。
- ・コースごとに学生と教員、学生同士が交流できるスペースを整備する。

年度計画	
16 年度	「リフレッシュルーム」の利用実態について調査を行う。
16 年度実施内容	「リフレッシュルーム」の利用実態調査について検討を開始した。
17 年度	学生と教員、学生同士が交流できるスペースの活用についての案をまとめる。
17 年度実施内容	教務委員会において、交流スペースの活用案について、引き続き検討した。
18 年度	交流スペースを整備する。
18 年度実施内容	リフレッシュルームの利用実態調査を実施し、ウォータークーラーを設置した。
19 年度年度計画	文学部棟の改修に伴い、今年度はリフレッシュルームの使用状況を大幅に変更せざるを得ない状況が考えられるため、学生の教育・生活環境が悪化しないよう工夫する。
達成度評価資料	教務委員会等検討資料

○教育の質の改善

- ・専門教育科目について Semester 毎に「学生による授業評価」を実施し、学生の授業に対する満足度について、5 段階評価の 4 ポイント以上を獲得する科目数を平成 18 年度までに全体の 80% まで増加させる。

年度計画	
16 年度	「学生による授業評価」において 5 段階評価の 4 ポイント未満であった授業科目の担当教員に「授業改善レポート」の提出を求める。
16 年度実施内容	「学生による授業評価」に基づく「授業改善レポート」の提出を授業の担当教員に求めた。
17 年度	引き続き同様の措置をとると共に、部局内での FD を独自に実施する。
17 年度実施内容	評価委員会の調査により、平成 16 年度の「特論」・「講義」共に、「大いに満足」と「満足」を併せて 80% 以上を得ていることが確認された。
18 年度	「学生による授業評価」において 5 段階評価の 4 ポイント以上を獲得する科目数を 80% 以上に維持するとともに、授業改善のための F D を実施する。
18 年度実施内容	「学生による授業評価」の対象科目を「演習」「実験・実習」まで拡大し、実施した。学生の授業に対する満足度については目標の数値を達成できた。授業改善のための F D を定期的に実施した。
19 年度年度計画	授業評価を有効に授業改善に結び付けるために、評価委員会と教務委員会が共同で、学生による授業評価の結果を踏まえた授業開発を行う体制を作る。特に基幹的な教科については改善の実状を経年的に確認し、教員にフィードバックすると共に自己改善の仕組みを作る。
達成度評価資料	「学生による授業評価」報告書と改善データ

- ・専門教育科目については、Semester 毎に授業評価等を実施し、その結果を授業改善に資する。